

《修士論文要旨》

カウンセリングにおける沈黙のイメージに関する研究

～PAC分析を用いたカウンセラーの語りからの考察～

小 寺 美 佐 江*

【はじめに】

日本固有の間・沈黙・心理療法の関係性を見出すことを研究テーマとしてきたが、本研究は「沈黙」に焦点化した。

【問題と先行研究の概観】

心理療法の目的は、クライアント（以下、CIと記す）とカウンセラー（以下、Coと記す）が対話を続けるプロセスでCI自身が問題を解決していくことだが、二者の対話が途切れる無音の時刻がある。本研究では対話が途切れる状態を「沈黙」と定義した。フロイトは患者の沈黙を治療への抵抗と意味づけた。以来、患者の沈黙は抵抗とは一義的に言えず豊穡なものとして指摘する論（成田、2001）を含めて多くの先行研究がある。しかし、個々のCoが持つ沈黙のイメージに焦点をあてた研究は少ない。個人の内面世界の認知やイメージ構造を第三者にも理解可能な形で提示する研究法、PAC分析（Analysis of Personal Attitude Construct；内藤、1993）に注目した。

【目 的】

本研究は、心理臨床の場における沈黙について臨床経験が異なる5人のCoを対象としてPAC分析の手続きによる自由連想をさせ、語られた内容とイメージを分析することで、Coがカウンセリングにおいて沈黙をどのようにイメージし、どのように理解し、どのような態度をとっているか、共通性を検討することを目的とする。

【方 法】

女性Co、5名（臨床経験5年以上3名－A・C・D、臨床経験5年以下2名－B・E）を協力者とし、2012年6月～8月に面接調査を実施。PAC分析の手続きに基づき「面接の場で体験される『間（沈黙など）』からイメージできる言葉、気持ち、感情の変化、出来事を思いつだけ挙げてみてください」の刺激語を提示して連想させ、クラスター分析、デンドログラム作成の後に、

平成24年度 *社会学研究科社会学専攻（臨床心理学コース）

デンドログラムを提示して面接を行った。

【結 果】

協力者にデンドログラム図のどの範囲でクラスター分けするか決めさせた後にクラスターの構造・イメージを語った解釈と、研究者が面接記録及びクラスター構造と連想項目への重要度・イメージ評定から解釈してクラスター命名した結果を記した。

【考 察】

結果から、下記3項を考察した。

① 沈黙理解の特徴と共通性：3項目から考察した。(1) クラスターの構造と面接のプロセスとの関連性があると解釈していること。またクラスター名称をイメージ・感情・態度・行為の4構造に分類して語りの傾向をみると、感情が面接を後退させ、イメージ・態度・行為は面接を促進させると捉えていることが示された。(2) 沈黙理解の視点の特徴は、沈黙は「考える時間」であり、沈黙場面で見出した洞察が面接の転換を生起させ得るという理解を持つことが示された。

(3) CIの抵抗を治療的に意識化する語りはなかった。

② 個別または複数の協力者にみる沈黙の諸相：8項目から考察した。(1) 協力者Dがイメージした外的空間は面接室(器)と推量し、器の構造と空気を概観した。(2)～(7) 語りから見出した6つの沈黙の諸相について述べた。居心地悪い沈黙は、面接室で生起する困惑・不安・気まずさの雰囲気、居心地の良し悪しと言語化の関わりが示された。不安にさせる沈黙は、面接初期のCIとCoが体験する不安と緊張感からの沈黙と、Coが抱くマイナス感情が示された。^{ためら}躊躇う沈黙は、初回面接の容易に言語化できないCIの躊躇い、面接の展開やCoの態度への躊躇い、直面化に至ったCIの躊躇いを見出した。親密な沈黙は、ある程度面接が進んだ二者に醸成される程よい距離からの穏やかな心の状態の沈黙が示された。おどろおどろしい沈黙—異界は、協力者Aが語る面接中期以降のCIの“影の領域”を探す営みから、産みだす沈黙は、沈黙のうちに内界探索を深めるCIに並走しつつ面接の方向と展開を探るCoの営みから見出した。(8) 6つの沈黙の諸相を対話志向性により類別した。

③ 協力者にみる沈黙への態度の共通性：3項目から考察した。(1) 協力者との面接から相槌の多用を見出し、相槌を打つ態度を考察した。(2) 沈黙するCIの発話と、CIが自己理解を深めることを期待しながら待つCoの態度を考察した。(3) CIの非言語的伝達面の観察や自己の内界観察をし、ロジャーズが呈示したCoの3条件に沿った態度を保持して二者の関係性を構築しつつ観るCoの態度を見出した。

【総合的考察】

協力者たちは、沈黙の6つの諸相のうち、親密な沈黙 おどろおどろしい沈黙—異界 産みだす

沈黙の3つが二者の対話を志向させると理解し、沈黙は「考える時間」であり、カウンセリングを展開させ得るとポジティブなイメージを持つことが、PAC分析を用いて見出された。本研究の課題は、PAC分析刺激語設定の明確化と性差を含む多様な立場の臨床家に拡大^{ひろ}げることにより、今回見出した沈黙の諸相の更なる検証が図られると考える。